『仏説無量寿経』上下２巻の構造

南無阿弥陀仏

❶ ■ 上巻 釈迦如来の出世本懐 「如来、無蓋の大悲をもつて三界を矜哀したまふ。世に出興するゆゑは、道教を光闡して、群萌を拯ひ恵むに真実の利をもつてせんと欲してなり。」

❷ 讃仏偈 「たとひ身をたとひ身をもろもろ」の苦毒のうちに止くとも、わが行、精進にして、忍びてつひに悔いじ。

❸ 四十八願・第十二願 「たとひわれ仏を得たらんに、光明よく限量ありて、下百千億那由他の諸仏の国を照らさざるに至らば、正覚を取らじ。」

❹ 四十八願・第十三願 たとひわれ仏を得たらんに、寿命よく限量ありて、下百千億那由他劫に至らば、正覚を取らじ。

❺ 四十八願・第十七願 「たとひわれ仏を得たらんに、十方世界の無量の諸仏、ことごとく咨嗟して、わが名を称せずは、正覚を取らじ。」

❻ 四十八願・第十八願 「たとひわれ仏を得たらんに、十方の衆生、至心信楽してわが国に生ぜんと欲ひて、乃至十念せん。もし生ぜずは、正覚を取らじ。ただ五逆と誹謗正法とをば除く。」

❼ 四十八願中・第三十四願～第四十八願に十一回 「聞我名字」

❽ 忍力成就 「不可思議の兆載永劫において、菩薩の無量の徳行を積植して、欲覚・瞋覚・害覚を生ぜず。欲想・瞋想・害想を起さず。色・声・香・味・触・法に着せず。忍力成就して衆苦を計らず。」

❾ 上巻結句 「かくのごときの諸仏、各々に無量の衆生を仏の正道に安立せしめたまふ」と。

❿ ■ 下巻 本願成就文 「十方恒沙の諸仏如来は、みなともに無量寿仏の威神功徳の不可思議なるを讃歎したまふ。あらゆる衆生、その名号を聞きて信心歓喜せんこと、乃至一念せん。至心に回向したまへり。かの国に生れんと願ずれば、すなはち往生を得、不退転に住せん。ただ五逆と誹謗正法とをば除く」と。

⑪ 流通文 「仏、弥勒に語りたまはく、「それかの仏の名号を聞くことを得て、歓喜踊躍して乃至一念せんことあらん。まさに知るべし、この人は大利を得とす。すなはちこれ無上の功徳を具足するなりと。

南無阿弥陀仏

浄土真宗の聖典の背骨＝センターラインは一貫して「六字の名号」。　親鸞聖人の「正信念仏偈」も同じ構造です。